



第95回

今月の肴

AMETTORA

文/いであつし
イラスト/綿谷寛

肴はいまどき流行のナウがいい。
着るもの細身でなくてもいい。
しみじみボヤけばあゝ、
えいえんどう〜
ウンチクばかり止まらない〜。

——ここは居酒屋ナウのれん
とりあえずビールね

日本がアメトラを救った物語。 話題の洋書『AMETTORA』

ガラガラガラ……(店の入り口の引き戸を開けた音。もっやってる?)

提灯に灯りがともる頃、世の中の流行に疲れたコンサバカオヤジたちが暖簾をくぐってこ来店。ここは居酒屋ナウのれん。今宵もまた常連客のいであつしと綿谷画伯が、今どきのナウを着てああだこうだとボヤいております。とりあえずビールちょうだい。瓶で。

いで いまやアメトラも、ラーメンとかオタクとかカワイイとおんなじくらいアメリカで通用する日本語だよ。

画伯 だね。アメリカ人よりアメトラに詳しい日本の某テラーがNYでトランクショーをやったら、向こうのアメトラオタクが押し寄せたらしいよ。

いで METTORAっていう本知ってる?

画伯 知ってる知ってる、アメリカ人のアメトラオタクが書いた洋書でしょ。

著者のデーヴィッド・マークス氏と日米アメトラオタク対決!

というところで今回のナウのれんは、話題の洋書『AMETTORA』である。

逆で著者にワレワレ日本人がアメトラを講義して教えてやるうじやないのよ。

画伯 だね。アメトラ歴ならワレワレのほうがよっぽど長いんだから。

と、タイトルでおわりのように、石津謙介氏の『VAN』のアイビーから始まり、メンクラでイラストレーター小林泰彦氏が広めた「ヘビアイ」や

いで そうそう、さっそくアマゾンでポチって買ったんだけどさ、表紙に日本語で「日本がアメリカンスタイルを救った物語」って書いてあるだけで、バカヤロコノヤロ、そこしか読めない。

画伯 そついや、著者が服飾史家の中野香織先生とお知り合いらしくて、明治大学で特別講義をやるんだって。

いで へえー、ぜひ受講したいね〜。

逆で著者にワレワレ日本人がアメトラを講義して教えてやるうじやないのよ。

画伯 だね。アメトラ歴ならワレワレのほうがよっぽど長いんだから。

と、タイトルでおわりのように、石津謙介氏の『VAN』のアイビーから始まり、メンクラでイラストレーター小林泰彦氏が広めた「ヘビアイ」や

いたよつな超エリートではないか。

まあしかしそうはいってもアメトラ歴なら、ワシらのほうがはるかに長いんだかね。アメリカ人のアメトラオタク(ややこしいな)の若僧に、日本のアメトラをちよこつと机上で調べたぐらいで語るわきやねえべなあ〜。

すると今回クッドタイミングで、明治大学で特任教授を務める服飾史家中野香織先生の授業でデーヴィッドさんが特別講義をするらしいのだ。

なんと中野先生から「ナウのれんも受講にいらしてよ〜ってよ」とお招きいただいたもんで、「行きます〜行きます〜」と尻尾を振って明治大学の野キャンバスに向かったのである。

明大中野キャンバスに到着したワレワレは、さっそくデーヴィッドさんの特別講義が行われる教室の教壇前の一番真ん前の席を陣取って、生徒さんたちと一緒に授業開始を待った。

教壇のスクリーンに『AMETTORA』の資料写真が映されて、中野先生から「では本日の特別講師、デーヴィッド・マークスさんです」と紹介されるといよいよ本人の登場である。

へえー、『ビームスプラス』のブレザーでBDシャツにボウタイを締めて、チノパンをロールアップしてくるぶし文で穿いて、素足に「オールデン」のローファーとは、なかなかやるでないの

んや、まてまて。ありゃきつと今日のためにあわてて一式揃えた営業アメトラに違いないぞ。メンクラもメイドインU.S.Aカタログもリアルタイムで読んでないアメトラオタクに、日本のアメトラがわかるかっつーの。

ところが講義が始まると、つい面白くて聴き入ってしまった。ちなみにデーヴィッドさんは日本語ペラペラね。

明治時代初期の洋装化の話から始まって、戦後から現代までの日本のメンズファッションの発展をアメリカとの関係を辿りながら語るファッション文化史は、いやあ、勉強になります。

とくにオレが感心しちゃった話は、ヤンキーファッションの変遷ですね。横須賀の本物のヤンキースタイルから原宿の「クリームソーダ」やホコ天で踊る80年代のロカビリーブームや、キヤロルの永ちゃんや横浜銀鯊まで、アメリカ人なのによく知ってるよなあ〜。

むしる講義を聴いている明大生のほうがまったく知らない話ばかりで、オレの後ろの席にいたビッグサイズのボケTにスポサンを履いた坂口健太郎みたいな塩顔男子の学生なんか、ポカんと口をあけて聴き入ってる。

そこいくとアータ、ワレワレは優等生だから。あー、銀座のみゆき族ね。あー、テイクアイビーね。あー、小林泰彦のヘビアイね。あー、メイドインU.S.Aカタログね。あー、ポバイのバイロット版のスキリーイフね。あー、プレッピーハンドブックね。ぜ〜んぶ昭和の昔にとくに学習済みでえーす。

こんな楽しい授業だったら、オレも若い頃に大学を中退なんかしないで主席で卒業できて、なんなら大学院まで進学してもよかつたのになあ〜。

あ、イカン。なんでワシらよりも若いアメリカ人のデーヴィッドさんからアメトラを教わらなきゃいかんだ。今日はガツンと教えてやるんだつた。

講義が終了後、デーヴィッドさんにインタビュできるというので、よし、メイドインU.S.Aカタログとポバイ創刊号を持参してきたんだもんね。これを見せてガツンと言ったるわい!」全部持ってます。国会図書館や神田の古本屋で探しました。「スキリーイフ」は東急ハンズのブックフェアで安く見つけて、メイドインU.S.Aカタログの2はネットで一万円で手に入れました。出した人が価値を知らなかったんでしょね。超ラッキーでした!

おー、スキリーイフも持ってるんだ。て感心してちゃダメじゃん。えーと、昔っから格好はアメトラなんですか?

ここがスゴイよ日本人!のファッション版

リアルに日本の「アメトラ」を経験したことない、でもアメトラの本場のアメリカ人(しかも本物のアイビーリガー)から学ぶ、日本のアメトラ史

「ボクはアメリカ南部の出身で、父親はBDシャツしか着ないそれこそ今日のボクみたいな格好をしていました。でもボクは10代の頃にはグランジが流行っていてロックTを着てましたね。全然似合わなかったですけど(苦笑)。日本に初めて来たときみんなオシャレで驚きました。ボクもエイブのTシャツを裏原で朝から並んで買いましたよ」

なんだよ、デーヴィッド君、グランジ野郎だったんだ。なんだかんだ言ってもやっぱり若いやね。ちなみにハーバード卒の「裏原ファッション」だったんだそうですよ。よし、ここからいであつし先生のアメトラ本ノックだ。テイクアイビーのアイビリーリガーが穿いているパンツはなんでみんなツンツンテンなのか知ってる？

「ハイハイハイ、知ってます。あれはコインランドリーで何度も洗って縮んだからといわれています。日本でいうバンカラ精神です。日本のアイビースタイルも、石津謙介さんは岡山のお坊ちゃん育ちです。だからこそVANは最初は不良扱いされても、品がよくてバンカラスピリットにあふれたスタイリッドだったので日本人に広まったんです」

へえー。て感心してちゃダメじゃん。これは知らないでしょう、オレは日本独自に進化を遂げた「ガラバゴスアイビー」って言ってるんだけど、ハマトラやポートハウスって知ってる？「ハイハイハイ、知ってます。ロゴ入りリトウリナー(デーヴィッドさんはスウェットをそう言う)ブームは原宿の「クルーズ」から始まりました」

ええー！ なんて昭和の昔の日本のヤング(オレね)に流行ったガラバゴスアイビーまでそんなに詳しいの？ この後も「これ知ってる？」と技をかけてもかけても「ハイハイハイ、知ってます」と一本背負いで投げられてしまう。ニホンジンアメトラヨワイネ。ま、まいりました……。やっぱりアメトラはアメリカ人のほうが詳しいです。

日本で洋服のいろはを広める教材としてアイビーはいいかも

VANの創業者 石津謙介 日本のアイビーの神様の存在だ



日本で最初にアイビーを紹介した人物が石津謙介だったのはとてもラッキーでした。お坊ちゃん育ちの彼だから、知的でバンカラなアイビールックの魅力を理解できたのです

本場のアイビリーリガーが言うのだから間違いない

岡山の紙問屋の次男だった石津は、学生時代からバイクやクルマ、乗馬、水上スキーなどに興じた、ハイカラなボンボンだった

日本人はネーミングが上手



ボクの格好ってヘビイブライって言うんだ？
ヘビイブライの親 イラストレータ 小林泰彦さん
ボクの造語
ヘビイブライ特集
オレ



話題の洋書『AMETORA』の著者 デーヴィッド・マークスさん
明治大学中野キャンパス 特別講義にて



あそこ、デーヴィッドは日本の空よ、アメリカ人だけど、毎日っいな授業ならオレは首席で卒業だな
担任 イチカワくん
服飾史家で明治大学 特任教授の中野香織先生
オヤジが若いヤンに昔話をすると嫌われるけど若いヤンがオマジに昔話をすると喜ばれる(笑)